

	<table border="1"> <tr><td colspan="2">1</td></tr> <tr><td>書名</td><td>まんまるだあれ</td></tr> <tr><td>著者等</td><td>著 今森光彦</td></tr> <tr><td>出版社</td><td>アリス館</td></tr> <tr><td>定価</td><td>1,300</td></tr> <tr><td>対象</td><td>幼児～小学校低学年</td></tr> <tr><td>発行</td><td>2018年4月</td></tr> </table>	1		書名	まんまるだあれ	著者等	著 今森光彦	出版社	アリス館	定価	1,300	対象	幼児～小学校低学年	発行	2018年4月	<p>まんまる まんまる まんまるだあれ ななつの もようがでてきたよ まんまる まんまる だれだかわかるかな ことことこと あしが でてきてうごいてる 赤いまるに、ななつの模様と足が出てきたら、テントウ虫になった。水色、茶色、緑色のまるから、目が出て足が出て、カタツムリやダンゴムシ、カエルになって……。まるが、いろいろな生きものたちに变身！切り絵のおもしろさと、はずむような言葉の調子が、とけあってできた、ユニークで楽しい絵本。単純な内容の中にも、作者独特のおおらかなユーモアが光る。</p> <p>(分類番号 726)</p>
1																
書名	まんまるだあれ															
著者等	著 今森光彦															
出版社	アリス館															
定価	1,300															
対象	幼児～小学校低学年															
発行	2018年4月															
	<table border="1"> <tr><td colspan="2">2</td></tr> <tr><td>書名</td><td>おばあちゃんとおなじ</td></tr> <tr><td>著者等</td><td>著 なかざわくみこ</td></tr> <tr><td>出版社</td><td>偕成社</td></tr> <tr><td>定価</td><td>1,300</td></tr> <tr><td>対象</td><td>幼児～小学校低学年</td></tr> <tr><td>発行</td><td>2018年3月</td></tr> </table>	2		書名	おばあちゃんとおなじ	著者等	著 なかざわくみこ	出版社	偕成社	定価	1,300	対象	幼児～小学校低学年	発行	2018年3月	<p>「なっちゃん、おばあちゃんによくにているなあ」と、おじいちゃんがいつもいうので、困り顔のなっちゃん。わたしって、おばあちゃんみたいなかおをしているのかなあ……。ある日、なっちゃんは、おばあちゃんに、一面たんぼぼの咲く空き地に連れて行ってもらった。秘密の場所をおしえてくれた、おばあちゃんには、子どもの頃の思い出がいっぱいつまっていた。おばあちゃんから、昔の話を聞いたなっちゃんは……。おばあちゃんとなっちゃんの心の通い合いがほのぼのと伝わってくる。生活の様子が、ていねいに描かれている絵も楽しい。</p> <p>(分類番号 726)</p>
2																
書名	おばあちゃんとおなじ															
著者等	著 なかざわくみこ															
出版社	偕成社															
定価	1,300															
対象	幼児～小学校低学年															
発行	2018年3月															
	<table border="1"> <tr><td colspan="2">3</td></tr> <tr><td>書名</td><td>くらやみのゾウペルシャのふるい詩から</td></tr> <tr><td>著者等</td><td>著 ミナ・ジャバアービン 再話 訳 山口文生 絵 ユージン・イエルチン</td></tr> <tr><td>出版社</td><td>評論社</td></tr> <tr><td>定価</td><td>1,400</td></tr> <tr><td>対象</td><td>幼児～小学校中学年</td></tr> <tr><td>発行</td><td>2018年1月</td></tr> </table>	3		書名	くらやみのゾウペルシャのふるい詩から	著者等	著 ミナ・ジャバアービン 再話 訳 山口文生 絵 ユージン・イエルチン	出版社	評論社	定価	1,400	対象	幼児～小学校中学年	発行	2018年1月	<p>大金持ちの商人アフマドは、とてつもなく大きくて不思議な生きものを、遠くインドの国から連れ帰り、暗い蔵の中に入れた。この生きものを見たくてたまらない村人たちは、交代で蔵の中に忍び込む。村人たちはそれぞれ、くらやみの中で生きものにさわって、「へびみたいなききもの」「木のみきみみたいだ」「まるで、うちわだ」……。その日一日中、村人たちはさわったものをめぐって大さわぎ。13世紀のペルシャの詩人ルーミーの詩をもとにした風刺話。伝統様式と現代感覚がマッチし、色彩豊かで鮮やかな絵が楽しい絵本。</p> <p>(分類番号 726)</p>
3																
書名	くらやみのゾウペルシャのふるい詩から															
著者等	著 ミナ・ジャバアービン 再話 訳 山口文生 絵 ユージン・イエルチン															
出版社	評論社															
定価	1,400															
対象	幼児～小学校中学年															
発行	2018年1月															
	<table border="1"> <tr><td colspan="2">4</td></tr> <tr><td>書名</td><td>王さまになった羊飼</td></tr> <tr><td>著者等</td><td>著 松瀬 七織 再話 絵 イ ヨンギョン</td></tr> <tr><td>出版社</td><td>福音館書店</td></tr> <tr><td>定価</td><td>1,600</td></tr> <tr><td>対象</td><td>幼児～小学校中学年</td></tr> <tr><td>発行</td><td>2018年3月</td></tr> </table>	4		書名	王さまになった羊飼	著者等	著 松瀬 七織 再話 絵 イ ヨンギョン	出版社	福音館書店	定価	1,600	対象	幼児～小学校中学年	発行	2018年3月	<p>むかし、地主の家に羊飼いの男の子が働いていた。一日中、来る日も来る日も広い草原に羊を追って草を食わせていた。ある日、草原で働いていた羊飼いの男の子は、白いうさぎに会い、自分のなけなしの麦粉（ツアンパ）をわけてやる。これが二日三日と続いて毎日のことになっていった。そして百日目、うさぎは白髪の老人の姿をした天の神さまとなり、麦粉の御礼に動物のことばがわかる不思議な力を授けてもらう……。羊飼いのやさしさが心にしみるチベットの昔話。中国の民間伝承研究者が再話、韓国の画家による明るく柔らかな色調の絵も魅力。</p> <p>(分類番号 726)</p>
4																
書名	王さまになった羊飼															
著者等	著 松瀬 七織 再話 絵 イ ヨンギョン															
出版社	福音館書店															
定価	1,600															
対象	幼児～小学校中学年															
発行	2018年3月															
	<table border="1"> <tr><td colspan="2">5</td></tr> <tr><td>書名</td><td>なずず このっぺ?</td></tr> <tr><td>著者等</td><td>著 カーソン・エリス 訳 アーサー・ビナード</td></tr> <tr><td>出版社</td><td>フレーベル館</td></tr> <tr><td>定価</td><td>1,600</td></tr> <tr><td>対象</td><td>幼児～小学校中学年</td></tr> <tr><td>発行</td><td>2017年11月</td></tr> </table>	5		書名	なずず このっぺ?	著者等	著 カーソン・エリス 訳 アーサー・ビナード	出版社	フレーベル館	定価	1,600	対象	幼児～小学校中学年	発行	2017年11月	<p>地面から小さな芽が出てきた、虫たちがながめて「なずずこのっぺ?」「わっぼど がららん」芽が伸びて葉をしげらせると、虫たちは「ダンダノビ ちょりまん」「ずんずうう」「コロジン たもろん?」と、昆虫語で会話を始める。虫たちははしごをかけて、すてきな、すみごごちのよい家を作り、楽しい生活をはじめる。ある日、その植物が、大きくてきれいな花を咲かせた。ところが……。植物をめぐると虫たちの四季のようすが、洒落た絵と文で描かれた絵本。詩人が訳した昆虫語の意味を想像しながら唱えて楽しめる。</p> <p>(分類番号 726)</p>
5																
書名	なずず このっぺ?															
著者等	著 カーソン・エリス 訳 アーサー・ビナード															
出版社	フレーベル館															
定価	1,600															
対象	幼児～小学校中学年															
発行	2017年11月															
	<table border="1"> <tr><td colspan="2">6</td></tr> <tr><td>書名</td><td>わたしと いろんなねこ</td></tr> <tr><td>著者等</td><td>著 おくはらゆめ</td></tr> <tr><td>出版社</td><td>あかね書房</td></tr> <tr><td>定価</td><td>1,200</td></tr> <tr><td>対象</td><td>小学校低・中学年</td></tr> <tr><td>発行</td><td>2018年6月</td></tr> </table>	6		書名	わたしと いろんなねこ	著者等	著 おくはらゆめ	出版社	あかね書房	定価	1,200	対象	小学校低・中学年	発行	2018年6月	<p>彩はねこが好きな小学3年生の女の子。彩はついよけいなことをいってしまうので、友だちともトラブル続きだ。彩はある日、児童館の入り口で願い事の短冊に、「友達ができますように」と書いているさくらちゃんとお会う。家に帰るとねこがいて……。ねこはどんな話もだまってきたり、よけいなことをいっても気にしない。さくらちゃんはねこみみたいな女の子。彩は「人の好きなことをばかにしない」と決心するとやさしい気持ちになれた。さくらちゃんの絵のまぼろしのねこを支えに、友だちとうまくいく方法をみつけ出していく成長物語。</p> <p>(分類番号 913)</p>
6																
書名	わたしと いろんなねこ															
著者等	著 おくはらゆめ															
出版社	あかね書房															
定価	1,200															
対象	小学校低・中学年															
発行	2018年6月															

	<table border="1"> <tr><td colspan="2">7</td></tr> <tr><td>書名</td><td>こだわっていこう</td></tr> <tr><td>著者等</td><td>著 村上しいこ 絵 陣崎草子</td></tr> <tr><td>出版社</td><td>学研プラス</td></tr> <tr><td>定価</td><td>1,300</td></tr> <tr><td>対象</td><td>小学校中学年</td></tr> <tr><td>発行</td><td>2018年7月</td></tr> </table>	7		書名	こだわっていこう	著者等	著 村上しいこ 絵 陣崎草子	出版社	学研プラス	定価	1,300	対象	小学校中学年	発行	2018年7月	<p>そうまくんは、ぼくとなんとなくいつもいっしょにいる友だちだ。そうまくんは物知りだが、時々こだわりスイッチが入ってしまう。ある日、なわとびをしようとき、そうまくんは思い通りにやろうとして、ぼくの目の上に持ち手があたり、血が流れた。その後、お母さんはぼくに「そうまくんとは、遊ばないほうがいいよ」といった。</p> <p>でも、そうまくんはかなちゃんといっしょにぼくの家遊びにくる。それを親にかくそうとするぼく。ぼくはそれがひきょうなことだと思う。「ぼくはそうまくんと友だちだから、いっしょに遊ぶ」と宣言する。友情物語。</p> <p>(分類番号 913)</p>
7																
書名	こだわっていこう															
著者等	著 村上しいこ 絵 陣崎草子															
出版社	学研プラス															
定価	1,300															
対象	小学校中学年															
発行	2018年7月															
	<table border="1"> <tr><td colspan="2">8</td></tr> <tr><td>書名</td><td>みちのく妖怪ツアー</td></tr> <tr><td>著者等</td><td>著 佐々木ひとみ 野泉マヤ 堀米薫 絵 東京モノノケ</td></tr> <tr><td>出版社</td><td>新日本出版社</td></tr> <tr><td>定価</td><td>1,500</td></tr> <tr><td>対象</td><td>小学校高学年</td></tr> <tr><td>発行</td><td>2018年8月</td></tr> </table>	8		書名	みちのく妖怪ツアー	著者等	著 佐々木ひとみ 野泉マヤ 堀米薫 絵 東京モノノケ	出版社	新日本出版社	定価	1,500	対象	小学校高学年	発行	2018年8月	<p>みちのく妖怪ツアー2018年に参加した小学生たちは、バスに乗りこんで東北へ向かう。運転手さんも添乗員もなんだか怪しい雰囲気。福島の安達ヶ原の鬼婆を退散させたのは、女の子に義母が持たせてくれた観音様のお礼だったが・・・。仙台では、食べものを粗末にする男の子が会った柿の実の妖怪、たんころりん。山形の泥田坊の息子、岩手では座敷わらし。青森では行動をなんでもお見通しのナマハゲ。行先で仲間がひとりずついなくなつて、最終目的地恐山では雨降り小僧。現代の子どもたちが妖怪に出会う、ミステリアスな旅の物語。</p> <p>(分類番号 913)</p>
8																
書名	みちのく妖怪ツアー															
著者等	著 佐々木ひとみ 野泉マヤ 堀米薫 絵 東京モノノケ															
出版社	新日本出版社															
定価	1,500															
対象	小学校高学年															
発行	2018年8月															
	<table border="1"> <tr><td colspan="2">9</td></tr> <tr><td>書名</td><td>ぼくのわがまま宣言!</td></tr> <tr><td>著者等</td><td>著 今井恭子</td></tr> <tr><td>出版社</td><td>PHP研究所</td></tr> <tr><td>定価</td><td>1,200</td></tr> <tr><td>対象</td><td>小学校高学年</td></tr> <tr><td>発行</td><td>2018年8月</td></tr> </table>	9		書名	ぼくのわがまま宣言!	著者等	著 今井恭子	出版社	PHP研究所	定価	1,200	対象	小学校高学年	発行	2018年8月	<p>五年生の翔は共働きの両親の都合で、田舎のおばあちゃんと暮らすことになった。犬を飼えるという約束は、おばあちゃんにことわられる。おばあちゃんは、実際はひいおばあちゃんだった。そこに住むクラスの友だちと田舎の生活を楽しむ、子どもの頃、母親を亡くして祖父母に育てられたお母さんの心にふれ、おばあちゃんとの暮らしになじんでいく。都会で仕事をする母、ベルギーで仕事をする父、みんな勝手だと思いながら、そこでの暮らしが気に入って田舎で暮らしていけたらと思う翔。自分の居場所をみつけていく男の子の物語。</p> <p>(分類番号 913)</p>
9																
書名	ぼくのわがまま宣言!															
著者等	著 今井恭子															
出版社	PHP研究所															
定価	1,200															
対象	小学校高学年															
発行	2018年8月															
	<table border="1"> <tr><td colspan="2">10</td></tr> <tr><td>書名</td><td>星を見あげたふたりの夏</td></tr> <tr><td>著者等</td><td>著 シンシア・ロード 訳 吉井知代子 絵 丹地陽子</td></tr> <tr><td>出版社</td><td>あかね書房</td></tr> <tr><td>定価</td><td>1,400</td></tr> <tr><td>対象</td><td>小学校高学年</td></tr> <tr><td>発行</td><td>2018年8月</td></tr> </table>	10		書名	星を見あげたふたりの夏	著者等	著 シンシア・ロード 訳 吉井知代子 絵 丹地陽子	出版社	あかね書房	定価	1,400	対象	小学校高学年	発行	2018年8月	<p>アメリカ合衆国メイン州のブルーベリー農場近くに、母を亡くし雑貨屋を営む祖父母と暮らす少女リリー。目が見えない老犬ラッキーが暴走して出会ったのが、フロリダから出稼ぎに来ている家族の少女サルマ。ラッキーの目が見えるように手術をしてもらおうと、ハチの家をペイントしブルーベリーフェスティバルで売ろうとするリリー。サルマも手伝う。やがてふたりは、遠くにも同じ星を見上げるスターフレンズになる。ブルーベリーフェスティバルに出るサルマ。ひと夏の少女たちが挑戦を通し、心揺れながら成長していく友情の物語。</p> <p>(分類番号 933)</p>
10																
書名	星を見あげたふたりの夏															
著者等	著 シンシア・ロード 訳 吉井知代子 絵 丹地陽子															
出版社	あかね書房															
定価	1,400															
対象	小学校高学年															
発行	2018年8月															
	<table border="1"> <tr><td colspan="2">11</td></tr> <tr><td>書名</td><td>あたしが乗った列車は進む</td></tr> <tr><td>著者等</td><td>著 ポール・モーシャール 訳 代田亜香子</td></tr> <tr><td>出版社</td><td>すずき出版</td></tr> <tr><td>定価</td><td>1,600</td></tr> <tr><td>対象</td><td>中学生～</td></tr> <tr><td>発行</td><td>2018年6月</td></tr> </table>	11		書名	あたしが乗った列車は進む	著者等	著 ポール・モーシャール 訳 代田亜香子	出版社	すずき出版	定価	1,600	対象	中学生～	発行	2018年6月	<p>母親がドラッグで死に、ニコチン中毒の祖母も亡くした12歳の「あたし」は、カリフォルニアから一度も会ったことのない叔父の住むシカゴまで、列車の旅をしている。大人に裏切られ続け、荒んだ暮らしと絶望の中で、この先の人生への希望も持てずにいた「あたし」は、髪を緑色に染め、嘘も平気で言う愛想のない子だった。だが、列車の中でさまざまな出会いを経験し、人と心を通わせる温かさや、未来に向けて行動を起こす素晴らしさを知っていく。二日間の列車の旅が少女の人生を変えていく様子がみずみずしく描かれ、本当は優しく聡明な「あたし」を応援したくなる青春小説。</p> <p>(分類番号 933)</p>
11																
書名	あたしが乗った列車は進む															
著者等	著 ポール・モーシャール 訳 代田亜香子															
出版社	すずき出版															
定価	1,600															
対象	中学生～															
発行	2018年6月															
	<table border="1"> <tr><td colspan="2">12</td></tr> <tr><td>書名</td><td>ぼくがスカートをはく日</td></tr> <tr><td>著者等</td><td>著 エイミ・ポロンスキー 訳 西田佳子</td></tr> <tr><td>出版社</td><td>学研プラス</td></tr> <tr><td>定価</td><td>1,500</td></tr> <tr><td>対象</td><td>小学校高学年～</td></tr> <tr><td>発行</td><td>2018年8月</td></tr> </table>	12		書名	ぼくがスカートをはく日	著者等	著 エイミ・ポロンスキー 訳 西田佳子	出版社	学研プラス	定価	1,500	対象	小学校高学年～	発行	2018年8月	<p>12歳のグレイソンは、両親を亡くし、叔父の家で育った。男子の友達の輪に入れないグレイソン、女の子達のファッションが気になり、自分もかわいらしい洋服を着て、スカートをはきたくてたまらない。亡くなった母親の残した手紙に背中を押され、学校の演劇で女神役のオーディションを受けて見事合格するのだが、それは想像以上の波紋を周囲に巻き起こして・・・。どうしても自分は女の子だと思うグレイソンの選んだ道は？トランスジェンダーの自覚と葛藤をていねいに描いた秀作。子どもから大人まで、LGBTの問題に悩む人、支える人、そして知識のない人こそが読みたい一冊だ。</p> <p>(分類番号 933)</p>
12																
書名	ぼくがスカートをはく日															
著者等	著 エイミ・ポロンスキー 訳 西田佳子															
出版社	学研プラス															
定価	1,500															
対象	小学校高学年～															
発行	2018年8月															

	<table border="1"> <tr> <td colspan="2" style="background-color: yellow;">13</td> </tr> <tr> <td>書名</td> <td>わたしが少女型ロボットだったころ</td> </tr> <tr> <td>著者等</td> <td>著 石川宏千花</td> </tr> <tr> <td>出版社</td> <td>偕成社</td> </tr> <tr> <td>定価</td> <td>1,500</td> </tr> <tr> <td>対象</td> <td>中学生～</td> </tr> <tr> <td>発行</td> <td>2018年8月</td> </tr> </table>	13		書名	わたしが少女型ロボットだったころ	著者等	著 石川宏千花	出版社	偕成社	定価	1,500	対象	中学生～	発行	2018年8月	<p>「ある日思い出した。わたしは人間じゃなくてロボットだった。だからご飯は必要ない。ダイエットじゃない、シングルマザーのママに女性の恋人がいることへの反抗でもない。ただ私は《少女型ロボット鈴木多鶴》だから誤作動を直してほしい。」中学卒業目前にそう言い出し、食事を拒否する多鶴に母親は混乱する。わかってもらえない孤独に苦しむ多鶴、ただひとり同級生のまるちゃんだけが多鶴の言葉を信じて、いっしょに「ロボットだ」という証拠をさがしてくれる……。人を救うのは『丸ごとうけとめて見守り続けること』だと気づかされ。自らを振り返るきっかけをくれる1冊。</p> <p style="text-align: right;">(分類番号 913)</p>
13																
書名	わたしが少女型ロボットだったころ															
著者等	著 石川宏千花															
出版社	偕成社															
定価	1,500															
対象	中学生～															
発行	2018年8月															
	<table border="1"> <tr> <td colspan="2" style="background-color: yellow;">14</td> </tr> <tr> <td>書名</td> <td>南西の風やや強く</td> </tr> <tr> <td>著者等</td> <td>著 吉野万理子</td> </tr> <tr> <td>出版社</td> <td>あすなる書房</td> </tr> <tr> <td>定価</td> <td>1,400</td> </tr> <tr> <td>対象</td> <td>中学生</td> </tr> <tr> <td>発行</td> <td>2018年7月</td> </tr> </table>	14		書名	南西の風やや強く	著者等	著 吉野万理子	出版社	あすなる書房	定価	1,400	対象	中学生	発行	2018年7月	<p>鎌倉に住む伊吹は深夜の神社で会った同級生の多朗に強引に誘われて、南西を目指して海辺の道を歩き出す。破天荒だが心やさしい多朗との一夜の冒険は、両親の期待と中学受験のプレッシャーに縛られて荒みかけていた伊吹の心を解き放っていく。物語は12歳、15歳、18歳の伊吹と周囲の人々との日々を切り取る。恋と友情の狭間で悩み、自分の弱さを知り、秘密をもち、思い通りにならない人生を知っていく伊吹。自分とは何で、どこを目指していくべきなのか？ 人とわかり合うとは？ 悩みながら成長していく等身大の少年の日々を自然体で描く、まぶしくさわやかな青春小説の佳作。</p> <p style="text-align: right;">(分類番号 913)</p>
14																
書名	南西の風やや強く															
著者等	著 吉野万理子															
出版社	あすなる書房															
定価	1,400															
対象	中学生															
発行	2018年7月															
	<table border="1"> <tr> <td colspan="2" style="background-color: yellow;">15</td> </tr> <tr> <td>書名</td> <td>不登校でも大丈夫</td> </tr> <tr> <td>著者等</td> <td>著 末富 晶</td> </tr> <tr> <td>出版社</td> <td>岩波書店</td> </tr> <tr> <td>定価</td> <td>800</td> </tr> <tr> <td>対象</td> <td>中学生～一般</td> </tr> <tr> <td>発行</td> <td>2018年8月</td> </tr> </table>	15		書名	不登校でも大丈夫	著者等	著 末富 晶	出版社	岩波書店	定価	800	対象	中学生～一般	発行	2018年8月	<p>小学校三年から学校に行かなくなり、そのまま成人した筆者、はじめは学校に行かないことを後ろめたく感じ、未来に対して不安ばかりを抱えていたが、ふとしたきっかけから出会った映画作りや生け花が、彼女の人生を思いがけない場所や人へと導いていく。それは不登校だったからこそその出会いだった。「人はそれぞれ違う楽器として、しかし自分が何の楽器なのか知らずに生まれてくる。いつか自由に奏でる日が来る」という言葉に勇気づけられる。エッセイスト、生け花アーティストとして活動する筆者が、不登校に関わるすべての人達におくる「不登校でも大丈夫」という温かいメッセージが詰まった本。</p> <p style="text-align: right;">(分類番号 371)</p>
15																
書名	不登校でも大丈夫															
著者等	著 末富 晶															
出版社	岩波書店															
定価	800															
対象	中学生～一般															
発行	2018年8月															
	<table border="1"> <tr> <td colspan="2" style="background-color: yellow;">16</td> </tr> <tr> <td>書名</td> <td>夢の猫本屋ができるまで Cat's Meow Books</td> </tr> <tr> <td>著者等</td> <td>著 井上理津子 協力 安村正也</td> </tr> <tr> <td>出版社</td> <td>ホーム社</td> </tr> <tr> <td>定価</td> <td>1,700</td> </tr> <tr> <td>対象</td> <td>高校生～</td> </tr> <tr> <td>発行</td> <td>2018年7月</td> </tr> </table>	16		書名	夢の猫本屋ができるまで Cat's Meow Books	著者等	著 井上理津子 協力 安村正也	出版社	ホーム社	定価	1,700	対象	高校生～	発行	2018年7月	<p>2017年夏、東急世田谷線西太子堂駅近くの住宅街の一角に「キャッツミャウブックス」という本屋が開店した。この店には保護猫が「店員」として常駐していて、店内の本はすべて「猫本」。売上の一部を保護猫団体へ寄付している。ノンフィクションライターの井上理津子さんが店主の安村正也さんや店の開業に関わった人たちに取材し、本屋のプラン構想から具体的な準備、開業資金の調達方法やオープン後の収支まで記している。本×猫×ビールを柱とし、「猫が本屋を助け、本屋が猫を助ける」をコンセプトとした猫本屋ができるまでを記したノンフィクション。</p> <p style="text-align: right;">(分類番号 024)</p>
16																
書名	夢の猫本屋ができるまで Cat's Meow Books															
著者等	著 井上理津子 協力 安村正也															
出版社	ホーム社															
定価	1,700															
対象	高校生～															
発行	2018年7月															
	<table border="1"> <tr> <td colspan="2" style="background-color: yellow;">17</td> </tr> <tr> <td>書名</td> <td>ルーム・オブ・ワンダー</td> </tr> <tr> <td>著者等</td> <td>著 ジュリアン・サンドレル 訳 高橋 啓</td> </tr> <tr> <td>出版社</td> <td>NHK出版</td> </tr> <tr> <td>定価</td> <td>1,500</td> </tr> <tr> <td>対象</td> <td>高校生～</td> </tr> <tr> <td>発行</td> <td>2018年8月</td> </tr> </table>	17		書名	ルーム・オブ・ワンダー	著者等	著 ジュリアン・サンドレル 訳 高橋 啓	出版社	NHK出版	定価	1,500	対象	高校生～	発行	2018年8月	<p>シングルマザーのテルマの生きがいは、12歳の息子ルイとセクハラにもパワハラにも耐え抜いて手に入れた仕事。しかし、テルマの目の前でルイは交通事故に遭い、昏睡状態に陥ってしまう。そして、一ヶ月たっても目覚めなければ治療は打ち切られてしまうことに。そんなある日、ルイの部屋で彼の夢が書かれた「不思議の手帳」を見つける。テルマはその夢を体験して、ルイに伝えることを決心する。息子のユニークで楽しい夢の数々を実現していくうちに、愛も友情も避けてきたテルマの生き方や、疎遠だった実の母との関係も変わっていく。人生を再生させてゆく人々の物語。</p> <p style="text-align: right;">(分類番号 953)</p>
17																
書名	ルーム・オブ・ワンダー															
著者等	著 ジュリアン・サンドレル 訳 高橋 啓															
出版社	NHK出版															
定価	1,500															
対象	高校生～															
発行	2018年8月															

	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">18</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>書名</td> <td>ブロードキャスト</td> </tr> <tr> <td>著者等</td> <td>著 湊 かなえ</td> </tr> <tr> <td>出版社</td> <td>KADOKAWA</td> </tr> <tr> <td>定価</td> <td>1,500</td> </tr> <tr> <td>対象</td> <td>高校生～</td> </tr> <tr> <td>発行</td> <td>2018年8月</td> </tr> </tbody> </table>	18		書名	ブロードキャスト	著者等	著 湊 かなえ	出版社	KADOKAWA	定価	1,500	対象	高校生～	発行	2018年8月	<p>中学時代、陸上部中距離ランナーとして全国大会を目指していた町田圭祐は、親友の良太と陸上を続けるために進学校の青海学院を目指す。無事合格したものの、その帰り道に事故に遭い、陸上を断念することに。苦悩する中、同じ中学出身の宮本正也に声を褒められ、一緒に放送部に入部する。同じクラスの久米咲楽も部員に加わり、最初は気が進まなかった圭祐だったが次第に関心を深め、全国高校放送コンテストを目指してラジオドラマに真剣に取り組んでいく。SNSいじめ、部活での理不尽な思いなどを経験しながらも、夢を見つけていく高校生たちの物語。</p> <p style="text-align: right;">(分類番号 913)</p>
18																
書名	ブロードキャスト															
著者等	著 湊 かなえ															
出版社	KADOKAWA															
定価	1,500															
対象	高校生～															
発行	2018年8月															
	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">19</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>書名</td> <td>ある晴れた夏の朝</td> </tr> <tr> <td>著者等</td> <td>著 小手鞠るい イラスト タムラブキコ</td> </tr> <tr> <td>出版社</td> <td>偕成社</td> </tr> <tr> <td>定価</td> <td>1,400</td> </tr> <tr> <td>対象</td> <td>中学生・高校生～</td> </tr> <tr> <td>発行</td> <td>2018年8月</td> </tr> </tbody> </table>	19		書名	ある晴れた夏の朝	著者等	著 小手鞠るい イラスト タムラブキコ	出版社	偕成社	定価	1,400	対象	中学生・高校生～	発行	2018年8月	<p>アメリカの高校生8人が肯定派と反対派に分かれ「原爆投下の是非」を問う討論会を行う。日系アメリカ人のメイは反対派として参加することになる。様々な資料を調べたり、歴史を勉強したりしながら、それぞれの角度や自分の背景にあるものを踏まえて主張し、相手の意見を聞き、さらに深い議論へと進んでいく。広島慰霊碑の碑文の主語がないことに対する誤解をどのように伝えれば分かってもらえるのか、メイは悩む。そして8人は4回にわたる討論の中で、ディベートの勝ち負けよりも重要なことに気づく。人種差別や平和とは何かを考えさせられる一冊。</p> <p style="text-align: right;">(分類番号 913)</p>
19																
書名	ある晴れた夏の朝															
著者等	著 小手鞠るい イラスト タムラブキコ															
出版社	偕成社															
定価	1,400															
対象	中学生・高校生～															
発行	2018年8月															
	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">20</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>書名</td> <td>夏空白花</td> </tr> <tr> <td>著者等</td> <td>著 須賀 しのぶ</td> </tr> <tr> <td>出版社</td> <td>ポプラ社</td> </tr> <tr> <td>定価</td> <td>1,700</td> </tr> <tr> <td>対象</td> <td>高校生～</td> </tr> <tr> <td>発行</td> <td>2018年7月</td> </tr> </tbody> </table>	20		書名	夏空白花	著者等	著 須賀 しのぶ	出版社	ポプラ社	定価	1,700	対象	高校生～	発行	2018年7月	<p>1945年8月15日。朝日新聞大阪本社の記者である神住は、数年前に甲子園で見た青空を思い出していた。戦争で中止に追い込まれた夏の甲子園大会。敗戦後間もない中、神住たちは翌年に大会を復活させようと動き出す。物資は乏しく国民は飢えていて、球場は蕎麦畑や芋畑になったりGHQに接収されていたりして、思うように使用できない。さらに、全国各地の指導者や進駐軍の面々など関係者を説得しなければならない。苦しい交渉が続く中、米軍のキーマンが組んでくれた日米の練習試合が奇跡を起こす。甲子園への熱い想いが人々を突き動かす、史実を基にした小説。</p> <p style="text-align: right;">(分類番号 913)</p>
20																
書名	夏空白花															
著者等	著 須賀 しのぶ															
出版社	ポプラ社															
定価	1,700															
対象	高校生～															
発行	2018年7月															